

## 平成 23 年 度 事 業 計 画

(平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)

日本銀行函館支店が発表した平成 23 年 4 月の道南地方の金融経済動向によりますと「道南地方の景気は、持ち直しつつある中、足もとは、観光・生産面を中心に東日本大震災の影響がみられ、先行き不透明感が強まっている。個人消費は全体として足踏み状況にあるほか、観光については、東日本大震災の影響から厳しい状況となっている」と報告されており、観光を取り巻く環境は、当市のみならず全国的に厳しい状況が当面続くものと推察しているところであります。

当市においても、函館駅前地区からベイエリア地区周辺において、朝市をはじめ多くの店舗などが津波により大きな被害を受けましたが、被害に遭われた方々の努力と多くの市民の皆様のご協力により、いち早く復興し、4月中旬には「はこだての復活」が宣言されたところであります。

当協会といたしましても、地震発生直後より、観光施設等の被害や復興の状況、さらには安全性を逐次、ホームページにて情報発信してきたほか、緊急対策として、函館市とともに東北地区における修学旅行の情報収集と情報提供、さらには、首都圏旅行エージェントへの旅行需要調査と商品造成の依頼を行うとともに、ゴールデンウィーク直前には、札幌市でマスコミキャラバンを実施し、南北海道における桜の見どころを PR してきたところであります。

こうした中で、ゴールデンウィークの直前には、東北新幹線が新青森まで運転が再開され、また、自粛ムードから脱却し、個人消費を高め、経済活動を活発化させ、被災地はもとより、日本全体を盛り上げる機運も徐々に高まっていることなどから、ゴールデンウィークにおける、観光入込状況は、道内客を中心として回復の兆しが見られたところであります。

また、インバウンドについても、台湾等東アジア地区から函館観光の安全確認のファムトリップを積極的に受け入れており、また、各国において、北海道への渡航自粛勧告が、相次いで緩和されるなど、少しずつではありますが今後、客足が戻ってくるものと期待を寄せているところであります。

しかしながら、福島第 1 原発事故の収束時期、また、被災地の復興の道筋が見えづらい中であって、当協会の本年度の事業につきましては、適宜、弾力的に執行することを視野に入れながら計画を策定いたしました。

まず、国内観光客の誘客に向けた取り組みとしては、道内客及び夏場に冷房を控えるなど電力の規制を受けるであろう関東圏等をターゲットとして、関係団体とともにプロモーションを進めて参ります。

また、「はこだて観光圏整備推進協議会」、「みなみ北海道観光推進協議会」と

の連携強化を図りながら、マスコミとのコラボレーションによる、みなみ北海道を巡るツアー等を引き続き実施するなど広域観光の推進に努めて参ります。

また、本年秋に、北海道初の国宝「中空土偶」を展示する施設としてオープンする「函館市縄文文化交流センター」の情報発信にも努めて参ります。

さらに、新たな事業として、携帯電話位置情報と動画サービスを活用した街歩きガイドの情報発信に取り組むほか、大手ウェブ媒体とのコラボレーションによる情報発信の強化を図って参ります。

インバウンド対策につきましては、実施時期等を見極めながら、中国、台湾、そして定期航空路線就航5周年を迎える韓国をターゲットとして、プロモーション活動を展開いたします。

コンベンションの誘致・受け入れにつきましては、函館市と連携してコンベンション主催者へのプロモーション活動を行うほか、主催者の事前視察を積極的に受け入れるなど、各種大会・会議の誘致に取り組むほか、本年秋に開催されます「全国観光産業フェア in はこだて」や「全国朝市サミット 2011 in はこだて」の成功に向け努力して参ります。

観光客をあたたく受け入れる、ホスピタリティの拡充に向けては、新たに、五稜郭地区に観光案内所を開設するとともに、観光関係者や一般市民を対象とした「観光客受入研修会」を順次、開催するほか、将来の函館観光を担う子どもを対象として、昨年度実施した「子ども絵画展」に加え、「函館観光」子ども学習会の開催など親子で楽しみながら函館観光に触れあう「はこだて観光キッズコンシェルジュ事業」を展開して参ります。

観光客誘致の大きな要素である観光イベントにつきましては、当地で開催されるイベントへの参画やPRに努めるとともに、南北北海道各地におけるイベントへの相互交流を図りながら、さらなる情報発信に努めて参ります。

また、函館市旧イギリス領事館及び函館市写真歴史館については、昨年度同様、親子で楽しむイベントの開催や各種講座、音楽会の実施など観光客はもとより、市民にも親しまれる施設づくりに積極的に取り組んで参ります。

さらに、観光客の利便向上のため、昨年より発行し好評を得ているフリーペーパーを作製し、函館・南北北海道の観光情報の発信に努めるとともにオリジナル商品等の販売促進に努めて参ります。

これら各種事業を推進し、当地域の観光振興をより一層推進していくためには、会員の拡大など当協会の基盤強化と関係行政機関、関係団体との連携が不可欠でありますので、会員皆様の一層のご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。